図1　職制段階別回答者内訳

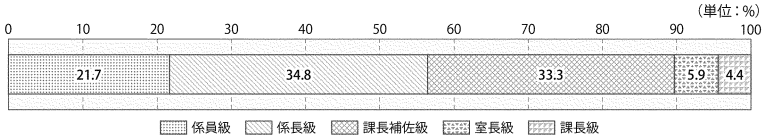


図2　年齢別回答者内訳

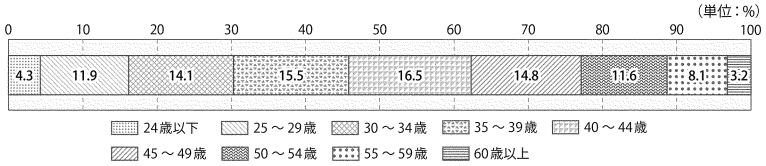


図3　採用区分別回答者内訳

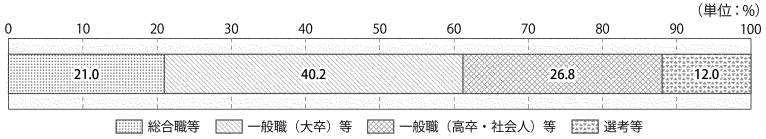


図4　性別回答者内訳

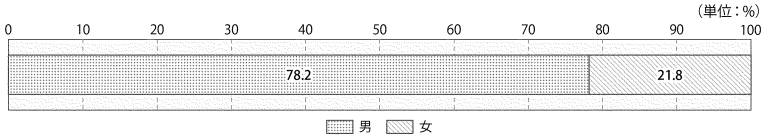
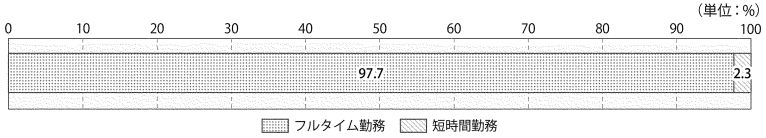


図5　勤務形態別回答者内訳



第２節　調査結果

１　結果の捉え方

５段階評定の回答について、「まったくその通り」、「どちらかといえばその通り」を肯定的な回答、「どちらともいえない」を中立的な回答、「どちらかといえば違う」、「まったく違う」を否定的な回答とするとともに、それぞれについて、順に５点、４点、３点、２点、１点と点数化して、全ての質問項目について点数の平均値を算出した。

結果の捉え方については、「どちらともいえない」という中立的な回答が３点となっているが、協力を得た株式会社日本能率協会総合研究所によれば、類似の質問項目を使用している地方公共団体などにおける過去の調査においては、肯定的な回答が否定的な回答を上回る傾向が見られるとのことであり、平均値が3.5前後となっている項目が中立的な傾向が見られる項目、4.0前後となっている項目が肯定的な傾向が見られる項目、3.0前後となっている項目が否定的な傾向が見られる項目と捉えることができるとのことであった。

本調査における全質問項目の総平均値は3.42、最も高い平均値が4.16、最も低い平均値が2.58となっていることから、本調査結果についても、基本的には上記と同様の捉え方が可能である。

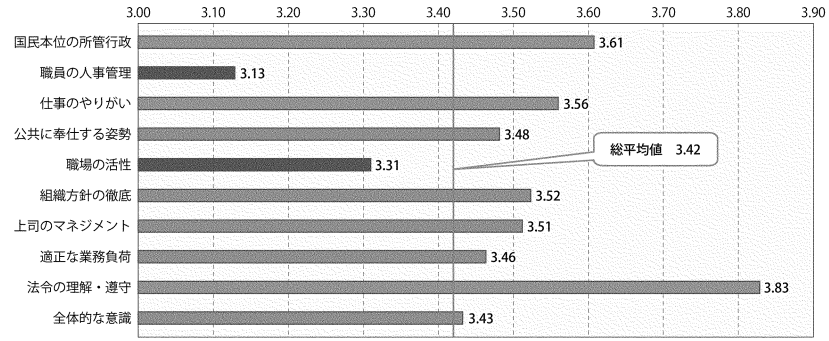
そこで、平均値が上位20位（3.63以上）となっている質問項目は、肯定的な回答割合がおおむね６割以上となっていることから、肯定的な傾向が見られる質問項目と捉えた。また平均値が下位20位（3.19以下）となっている質問項目は、肯定的な回答割合がおおむね４割以下であり、かつ、否定的な回答が２割以上となっていることから、否定的な傾向が見られる質問項目と捉えた。さらに、どちらでもない質問項目を中立的な傾向が見られる質問項目と捉えた上で分析を行った。なお、これらは目安であり、平均値が上記に近似するものについては、やや肯定的な傾向、やや否定的な傾向として扱った。

２　領域別の結果

調査結果の集計や統計的分析を行うに当たり、全ての質問項目を対象として因子分析を行った。その結果、抽出された10の因子を、それぞれの内容に即し、【国民本位の所管行政、職員の人事管理、仕事のやりがい、公共に奉仕する姿勢、職場の活性、組織方針の徹底、上司のマネジメント、適正な業務負荷、法令の理解・遵守、全体的な意識】という領域として定義した。

領域ごとに平均値を算出した結果は、図６のとおりである。

図6　領域ごとの平均値



公務職場に関する意識について各領域を比較すると、【法令の理解・遵守】が3.83、【国民本位の所管行政】が3.61、【仕事のやりがい】が3.56となっており、肯定的な評価がなされているが、一方で、【職員の人事管理】が3.13、【職場の活性】が3.31となっており、やや否定的な評価がなされている。全質問項目の総平均値は、3.42となっており、全体的には中立的な評価がなされている。

以下、領域ごとに、質問項目の内容及び回答の傾向について記述する。なお、図に掲げている各質問項目の回答割合の数値は資料１に、また、各質問項目の属性別の平均値は資料２に掲げるとおりである。